

○大矢知興讓小学校児童数推計（平成29年度推計 速報値）

		推計値									
		H3	H31	H32	H33	H34	H3	H36	H37	H38	H39
大矢知興讓小	児童	800	778	798	821	854	875	914	960	977	988
	学級数	26	26	26	27	28	28	29	30	31	32

※利用可能教室数：27

<大矢知興讓小学校の児童数推計について>

大矢知興讓小学校の児童数推計の推移を見ると、年々増加傾向にある。

特に平成27年度推計から平成28年度推計については、大幅な増加となっており、同様の傾向が平成29年度も続いている。

推計年度												
平成23年度	745	731	744	734	745	752						
平成27年度	751	727	739	730	744	744	765	783	798	818		
平成28年度 (実績)	773	764	769	751	771	790	829	867	905	953	975	
平成29年度 (速報値)	773	770	800	778	798	821	854	875	914	960	977	988

この理由としては、出生数の増加の影響によるもの、及び転入者数の増加の影響によるものが考えられる。

(1) 出生者数の増加の影響によるもの

- ・平成28年度の出生者数（0歳児実績値）が、平成27年度の推計値より増加した（194人→227人）ことにより、当該学年が入学する平成34年度以降の推計値が増加した。
- ・平成28年度の出生者数の増加に伴い、平成29年度以降の出生者予測数が増加し平成35年度以降の推計値が増加した。

(2) 転入者数の増加の影響によるもの

- ・平成28年度の1歳児が転入により平成27年度の0歳児実績値より増加した（191人→208人）ことにより、当該学年が入学する平成33年度以降の推計値が増加した。

平成30年1月24日 議員説明会資料

1 大矢知興譲小学校施設課題対策案の評価 ◎優位性あり ○概ね評価できる △一部、課題あり

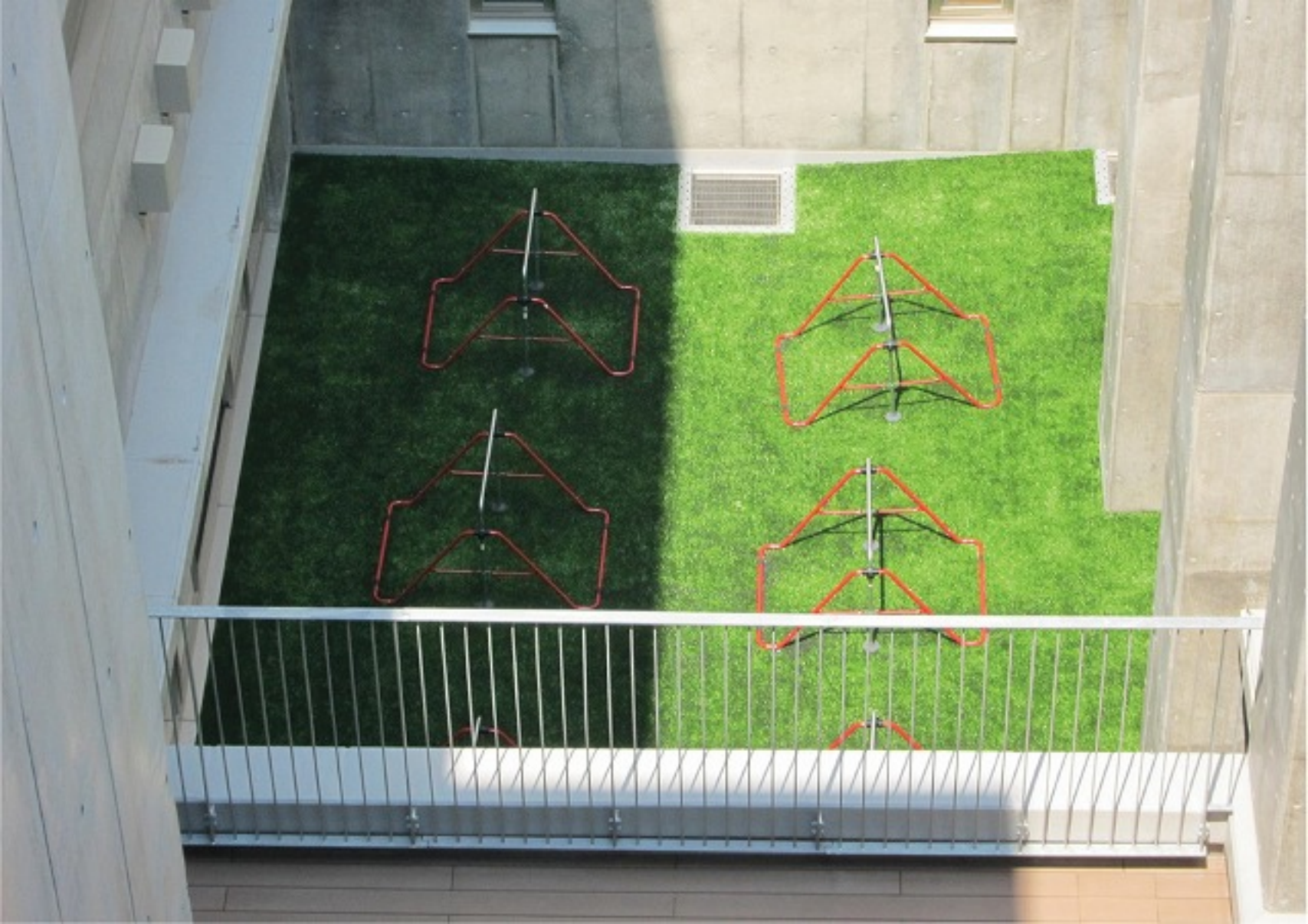
項目		C案	(参考)移転検討案	
改築スケジュール	・児童数増による普通教室数の不足(平成34年度以降と予測)への対応	◎ (約28ヶ月)	△ (約84ヶ月)	
工事 期間中	仮設校舎	◎	△	
	学校・児童への 負担	・工事期間の長さ ・工事終了までの引っ越し回数	◎	△
		・工事期間中の運動場(遊び場)の確保	△	○
改築後	動線	◎	◎	
	運動場	◎? (○か△では?)	◎	
概算事業費における費用対効果		◎	△? (C案に調整池が含まれない、◎では?)	

※ A案、B案、C案 … 平成29年11月2日議員説明会資料P10～16に記載

※移転検討案…平成29年12月20日議員説明会資料P3～4に記載











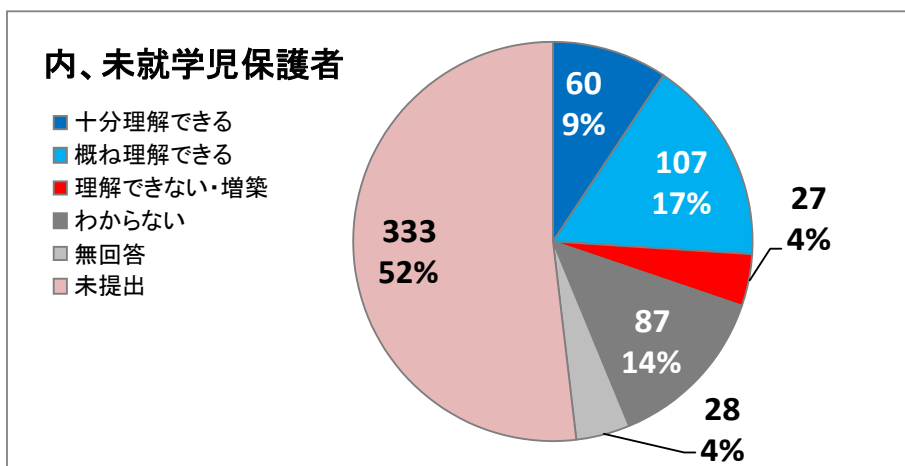
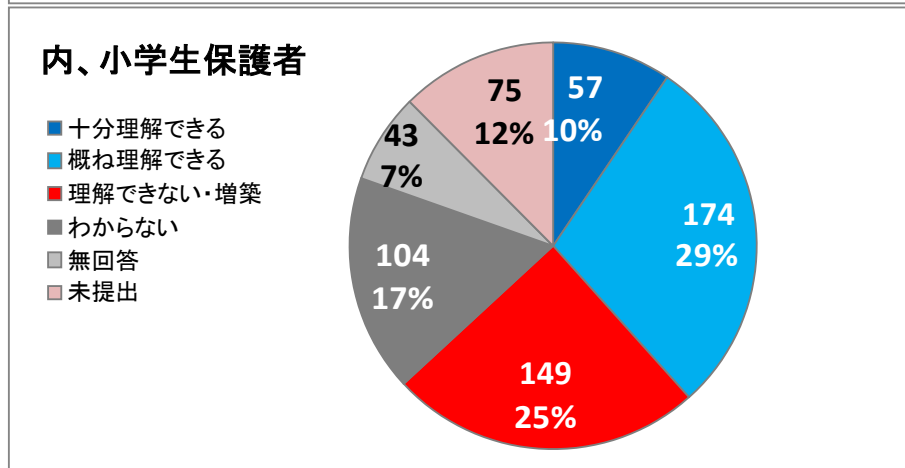
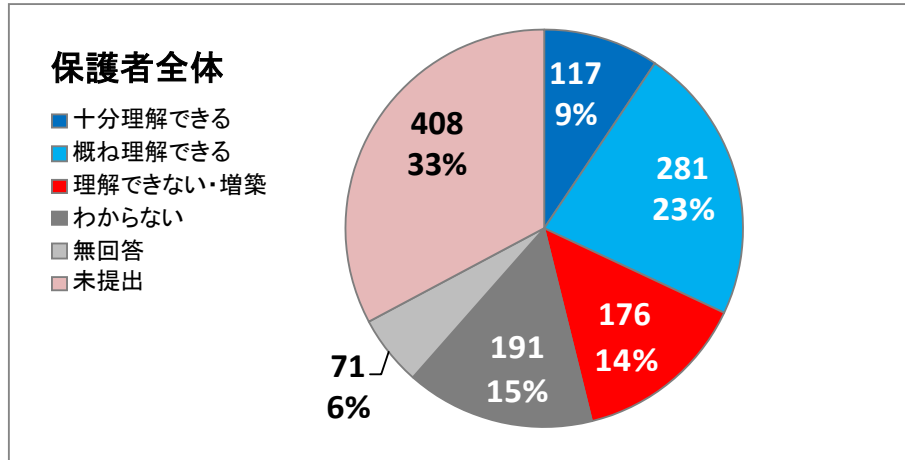








◇ 全面改築の内容・必要性への理解（未提出分を含む割合）



平成 29 年 6 月定例会議会 補正予算  
「大矢知興譲小学校施設課題対策事業費、  
朝明中学校施設課題対策事業費」追加資  
料より抜粋

<大矢知興譲小学校施設課題対策事業費、朝明中学校施設課題対策事業費（追加資料）>

## 2 朝明中学校施設課題対策事業費 補正予算上程の理由

学校施設の校舎については、計画的修繕により長寿命化を図ることとし、校舎の老朽化に伴って大規模改修を順次実施している。現総合計画期間においては、昭和 40 年代建築の校舎について順次、事業を進めることとしており、朝明中学校については、総合計画策定時には平成 30～31 年度に大規模改修を計画していたものである。

その後、朝明中学校移転建替の検討に伴い、この大規模改修の予定を削除した。

しかし、今回の朝明中学校移転建替の中止に伴って、朝明中学校の校舎の老朽化に対応する必要があることから、当初の計画通り大規模改修を行うとともに、併せて生徒の安全面での課題解消を図るための施設改善を行うため、朝明中学校施設改善基本構想を策定しようとするものである。

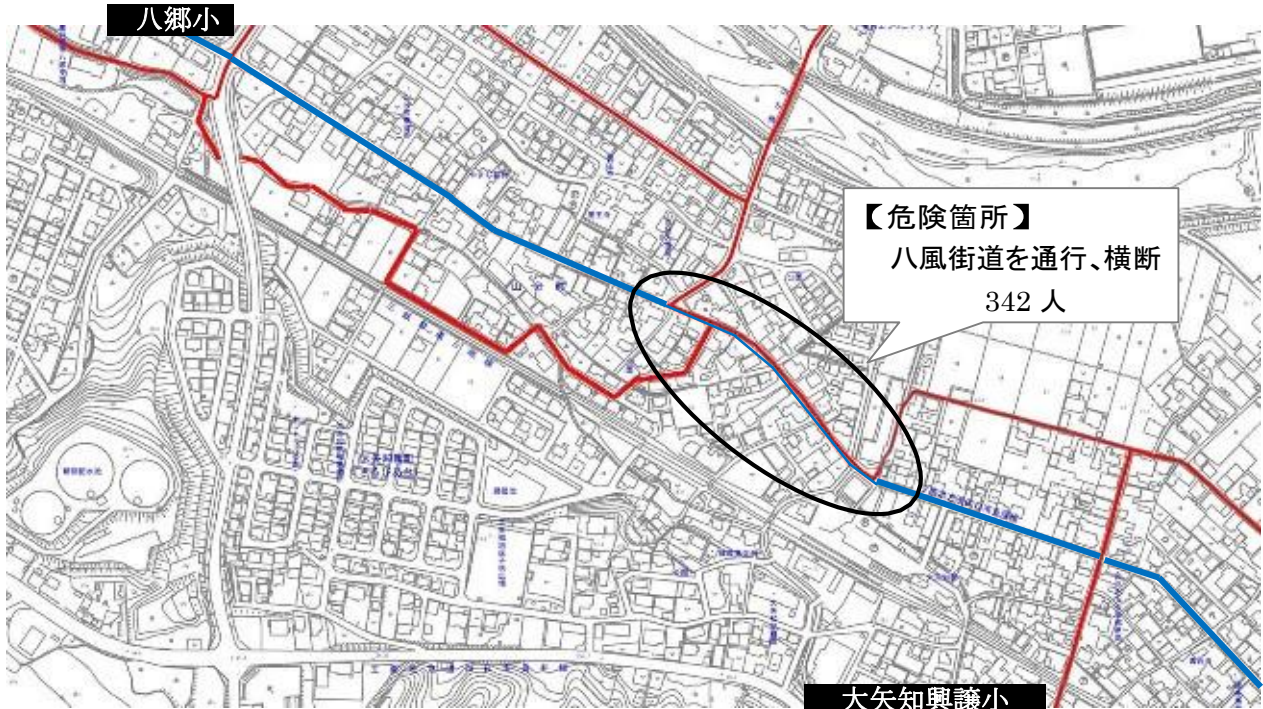
なお、朝明中学校については、市内中学校の生徒一人当たりの校舎面積及びグラウンド面積を比較すると、常磐中学校、山手中学校に次いで3番目に狭いものの、面積という視点での課題解消は行わない予定である。

## 【参考資料2】通学路安全対策について

### 1 朝明中学校通学路

#### (1) 危険箇所(下図参照)

八風街道を通行する部分の安全対策が課題となっている。



#### (2) 対応状況

##### ① 対応の経緯

- 平成 29 年 12 月 朝明中学校と関係地域住民等による現地調査実施  
朝明中学校から「通学路要対策箇所調査票」(対応依頼書)提出
- 平成 30 年 1 月 四日市市通学路交通安全推進会議において検討  
(市教委、道路管理者、警察の三者による合同点検を実施予定)

##### ② おもな対応策

- ・通学路の変更(八風街道を通行する距離を極力短くする、横断箇所を集約する)  
→通学路として使用可能なルートを学校・地域で検討中
- ・カーブミラーの設置
- ・ガードパイプ等の設置
- ・保護者・地域による見守りの実施

(3) 朝明中学校の移転中止と施設改善

朝明中学校移転建替を中止し、小中の課題を分離して解決を図るという考え方に対する、課題解決の手法の整理は以下のとおりである。

教育環境課題	移転建替による 課題への対応の考え方	移転建替を中止し、 小中の課題を分離して解決を図る理由
1・人口約2万人の大矢知地区に中学校がない	朝明中学校を大矢知地区に移転することで、人口の多い地区への中学校立地とともに、配置の偏りが解消される。	人口2万人の地区に中学校はできるが、人口1万3千人の八郷地区から中学校がなくなる。
2. 大矢知の中学生が地区外の4つの中学校に通学	校区は、現状どおりとするが、垂坂地域を選択可能な地域とすれば、希望すれば地区に立地された学校に通うことができる環境が整備される。	校区は現状どおりであるため、生徒が4つの中学校に分散して通学する構図は変わらない。
3・朝明中学校への遠距離自転車通学	全校生徒の通学距離の総和を縮減することができる。八郷地区の一部の生徒の通学距離が長くなる。	大矢知地区の生徒には近距離となるが、八郷地区の生徒が遠距離自転車通学となる。
4・朝明中学校の学校施設不足	想定生徒数の規模に応じた施設を整備することにより、施設不足が解消される。規模以外の課題（段差等）も解消される。	朝明中学校の生徒数は、ピークを過ぎている。また、市内中学校の生徒一人当たりの校舎面積、グラウンド面積を比較すると朝明中学校の狭さは市内3番目であり、最優先に課題解決を図ることは問題がある。
5. 大矢知興譲小学校の学校施設不足	移転建替した朝明中学校の施設を、大矢知興譲小学校において共用することにより、小学校施設の不足が解消される。	大矢知興譲小学校の児童数は、推移を見ても増加の一途をたどっており、施設不足への対応は優先的に解決すべき喫緊の課題である。 また、施設不足以外の課題としても、プールや体育館、教室配置など学校施設としての使い勝手の悪さが生じている。

## <移転中止による課題解決への効果>

- ・前項の課題1～3に関しては、移転中止によって、中学校の場所が変わらないことから、課題は解決しない。そのため、将来的な学校配置の課題として、**学校規模適正化の検討において引き続き議論する必要がある。**
- ・前項の課題4に関しては、将来の生徒数増を見込んだ施設不足は解決しないが、段差や安全確保等については、大規模改修の時期を見据えて、施設改善を図ることで、教育環境を改善できる。
- ・前項の課題5に関しては改築を含めた施設改善を図ることで、検討課題の解決が可能である。